

名古屋市がLPG車 導入 政令指定都市公用で初

名古屋市は6月16日、政令指定都市の公用車では初となるLPG車を導入した。導入したのはニッキ製VPIを採用した日産ADバン(1500cc)。同市は「試験的に導入して使い勝手、インフラ状況、データなどを入手したうえで、公用車として今後の追加導入を検討したい。」(加納信隆・大気環境対策課長)

導入した日産ADバンはリース車両で、東邦総合サービス(松浦正明社長)が応札した。今後は主に、東邦エコオートガス(本社・名古屋市、梅村幸治社長)のオートガススタンドで燃料補給をしていく。

名古屋市は市営バス約1,000台など、計3,193台の車両を保有している。低公害・低燃費のエコカーを積極的に導入し、平成17年までの5年間にバスを除きエコカー率を約10%に引き上げた。

18年には、さらに導入を図るため「公用車への低公害・低燃費車の導入方針」を掲げた。原則的に100%エコカーを導入するとし、「すでに保有する自動車は、車両更新時に『低公害・低燃費車』へ順次切り替える」とした。

この方針の下、市では「従来、天然ガス車を筆頭にハイブリッド車、一部電気自動車などの低公害車に加え、四つ星車、新基準達成車など低燃費車を率先して導入してきた」という。LPG車についても導入を検討し、このほどようやく導入に踏み切った。

導入に当たり、既存の1500ccクラスのガソリン車をLPG仕様のADバンに入れ替えた。従来同様に各現場との連絡車両として活用していく方針。



ADバンと名古屋市の木下結香子技師 会見に臨む加納信隆課長(左)と山田信吾係長
(画像提供; ㈱石油化学新聞社)

以上